

霜柱

小野澤繁雄

みちの片土つながりに霜柱通学班にすでも踏まれ
三ツ辻に傾いてある石仏凭れてひとつ牛乳瓶がある

「いっちゃんいくよ」は球がいくよ休み朝も早いのはこどもたち、年より
そうはまだ育たぬ霜の柱なれ団地棟下草がひかって

信号が青になりそう三人の中学生が突っ込んでくる

おそろいの色は青その上に犬連れている人は年よりに同じ
庭木々のひとつのような電柱にこれも庭木の杉がよりそう
竹林を挟んで畑の人の声その前にもや犬の声して

冬至日もたちまちすぎてみるところ家庭菜園に九番本休み
行儀よくすわりなおしている犬が軒下に居りそれをみている